

更なる挑戦の開始

わが国では今年3月11日に東日本大震災が発生し、あまりに大きな犠牲を強いられることになりました。その大きさのために、すでに記憶から薄れてしまいそうな惨事がありました。

昨年10月20日に奄美大島で豪雨のため大災害が発生したのです。土砂崩れが各所で発生し、川の氾濫で村全体が水没した集落もあり、生き埋めとなり死者もでる大変な状況でした。川およびその周辺に生息していた動植物は海へ流され、奄美大島独自の生態系をなした貴重な自然が大打撃を受けたのです。いまさらながらですが、奄美には世界中探しても奄美にしか存在しない動植物がたくさんあったのです。このたび東北の平泉と同時に、小笠原諸島が世界自然遺産に登録されましたが、奄美にもそれに匹敵するような自然遺産が存在するのです。

私は昨年11月に災害のお見舞いを兼ねて始めて奄美大島を訪問しました。そこで目にしたものは災害の傷跡だけではありませんでした。復興しなければならない大きな被害と、その後の生活や環境維持を継続するには厳しい地場産業の状況でした。

かつて奄美大島は戦後の占領状態から地元の人たちのがんばりで、いち早く祖国に復帰した日本の領土でした。日本領土で一番南に位置する南国の島として、現代のようにハワイなど簡単に海外旅行が出来ない時代において、観光は奄美にとって大変大きな産業でした。でもその観光も沖縄が返還されることによって観光客の激減となるのです。しかし、奄美には収益産業として大島紬という高級織物が存在しました。耕地が少なく台風の被害も頻発するこの島で、唯一の大きな収入源でした。そして、私たちの住むこの京都は（和装）着物の産地問屋が多く、大島紬は高級品として収益をあげる最高の商材でした。しかし、目先のきく人が大島紬の技術を韓国へ伝え、韓国で紬を作らせることになるのです。この事により奄美の大島紬は大打撃を受け、以前のような産業として成り立たなくなってしまったのです。京都は大島紬で儲けさせていただきながら、ほとんど関係がなくなってしまったのです。

この事実は、「お世話になったら、必ずお返しをする」と言う私の生き様には会いません。同じ京都でビジネスをするものとして、何かお手伝いしなければ・・・と私のなかで大きな何かが動きました。

私達がお手伝い出来ることは、「奄美でしか出来ないものをネットで販売する」ことでした。そして、その奄美でしか出来ないもの、それが黒糖焼酎だったのです。しかし、お酒を販売する事は酒税法の関係で国の免許が必要です。そこで、弊社は100%出資子会社の株式会社甚松を設立し、通信販売酒類小売業の免許を取得、新たな挑戦を始めることになりました。ちなみに黒糖焼酎は法律上奄美にしか製造を許されないお酒なのです。

奄美特産品の黒糖焼酎が売れば必ず奄美にプラスになる。そして酒税として国に税金が入れば災害地の復興支援にも間接的なお手伝いとなると考えました。

私はさらに、「このお酒の収益の一部を、奄美が世界自然遺産登録のために活動する NPO 団体に寄付することにしよう。」と考えました。

この事業を成功させるために、奄美大島開運酒造さんは**甚松**という名の新しいブランドのお酒を弊社に独占的に OEM 供給していただくことになりました。

シェリーの樽で長期熟成した素敵な香りの最高級の黒糖焼酎です。

関係する人々の超例外的な努力で弊社の 30 周年記念日である 8 月 6 日にあわせて新製品を世の中に出して下さいました。

もはや、この甚松と言うお酒は 人の縁（えにし）で生まれたお酒であることは疑う余地がありません。

私たちはこのご縁を大切にし、仮称「甚松倶楽部」という応援団を作り、更に人のご縁を深めるビジネスにしていきたいと思います。

新しい挑戦は「世のため人のため」を社是として掲げる株スリーエースにふさわしいものと信じます。

皆様の更なるご支援をどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

井上太市郎